

令和7年度 第4回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）議事録

- 1 期日：令和8年2月10日（火）
- 2 場所：有田工業高校 会議室
- 3 出席者：外部委員 10名（学校長含む）、欠席者 3名
事務局：本校職員 13名

4 議事録

（1）開会

- ・佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」の第8条に基づき、本協議会は公開であること
- ・傍聴希望は、事前申請のうえ、傍聴可能となっていること（本日は傍聴希望なし）
- ・議事録作成や活動実績報告のため、事務局で音声記録や写真等を撮ること。
- ・「佐賀県立学校運営協議会の設置等に関する規則」の第7条第2項「協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」を確認し、本会議は過半数以上の出席を得ており、会議は成立していること。

（2）学校長挨拶

①卒業制作展の実施

- ・機械科が有田町役場本庁舎町民ロビーで初開催、全体で約1,300名来場

②3年生全日制の進路状況

- ・約150名中、就職約100名・進学約50名。
- ・国公立大学5名内定（佐賀大学、長岡造形大学など）
- ・就職については、一部の未定者を除き全員内定済み

③部活動実績・コンテスト・資格等の成果報告

- ・放送部九州放送コンテスト佐賀県勢初の最優秀賞
- ・セラミック科3年生が日本和文化グランプリ学生最優秀賞（高校生初）
- ・ウエイトリフティング九州大会団体3位、
- ・地域みらい留学生2名が教育委員会表彰
- ・電気科で第種二電気工事士資格を取得（1～3年生全92名が合格）

④定時制4年生の進路

- ・就職4名・進学2名（今年度は欠席0を継続中）

⑤特別選抜志願

- ・66名の志願者のうち43名を合格

（3）議事（進行は会長）

①部活動の実績報告

●全日制報告

- ・第5回全国知財創造実践甲子園（デザイン科）の参加・全国やき物甲子園（セラミック科3年生）
- ・デザインパテントコンテスト（選考委員長特別賞・優秀賞）
- ・後期技能検定優秀者表彰：電気科（シーケンス制御）機械科（機械加工）で知事賞
- ・ウエイトリフティング九州大会：102kg級・73kg級で3位

- ・NHK 杯放送コンテスト全国大会：テレビドキュメント部門創作テレビドラマ部門で入選
- ・全国高等学校漫画選手権大会：2年連続で漫画研究部が書類審査を通過し全国出場
- ・Honda エコマイレッジ 2025 第40回九州大会
二輪車クラス3位 / グループ2 高校生クラス6位入賞（自動車研究部）
- ・全国高等学校ファッションデザイン選手権大会：デザイン科が書類審査通過入選（青森でファッションショーに参加）
- ・滋賀県国民スポーツ大会ウエイトリフティング 2025：8位入賞
- ・マイコンカーラリー競技九州大会アドバンス部門出場（ロボット研究部）今年1月に全国大会（北海道）出場
- ・日本和文化グランプリ工芸・美術部門／陶磁：学生優秀賞
- ・九州高校放送コンテスト：ラジオ番組部門最優秀賞（佐賀県勢として初優勝）

●定時制報告

- ・佐賀県高等学校定時制通信制体育大会
陸上男子：走り幅跳び1位・3位／円盤投2位／砲丸投3位
卓球女子：個人3位
佐賀県選抜として全国大会出場（陸上）
- ・全国高等学校総合文化祭：定時制新聞部「ヤッホー」が選出・参加
- ・佐賀県高等学校総合文化祭美術工芸展
彫刻工芸部門で準特選2名・デザイン部門準特選1名
新聞コンクールで最優秀賞（令和8年度全国大会出場決定）
- ・佐賀県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会
白石町長賞・NHK 佐賀放送局長賞を受賞

②全日制3年生及び定時制4年生の進路状況等について

●全日制報告

- ・求人企業数1,494社、求人票数2,808件、求人数2,863件（前年度比約200件増）
- ・就職が3分の2・進学が3分の1の結果ともに順調に内定・合格。
- ・県内企業を重視しつつ、遠方の優良企業からも求人をいただいて結果を出している。
- ・国公立大学合格5名
- ・公務員合格5名
- ・電気科では就職内定後に進学を選択する生徒も増加傾向で、教員を志す生徒も出てきている
- ・全体で約145名の卒業生

●定時制報告

- ・卒業予定者6名：就職決定4名・進学2名
- ・自費で塾に通い大学進学を果たした意欲的な生徒の事例を紹介

意見：委員

- ・表彰数の多さから、日ごろの先生方の指導の成果が表れていると感じた。
- ・生徒の自信や意欲の向上につながるため、これらの実績を中学生や入学希望者にもわかりやすい形で発信するとよいのではないかと意見があった。
- ・学校ホームページの表彰一覧について、トップページのバナーに並んでいるとアクセスしや

すくなるのではと意見があった。

③第2回高校魅力化評価システムアンケートの結果について

●学校評価のかかわる項目について説明

- ・第2回アンケートは41項目（重点項目のみ）を実施、第1回からの伸びた項目は29項目中18項目、全国平均を上回った項目は29項目中16項目だった。
- ・全国平均よりも高かった項目で、「地域から大切にされている雰囲気を感じる」は全国比+9.1%、「目標設定し確実に実行できる」は全国比+10.3%だった。
- ・「この学校を中学生にお勧めできる」は、83.8%で魅力化促進事業指定校中2番目に高かった。
- ・「今の生活の満足度」72.7%で魅力化促進事業指定校中4番目の高さ、全国平均値72.6%よりも0.1%高かった。
- ・課題：学校独自項目「本校のグランドデザインを理解している」の肯定的回答が58.1%と他項目に比べ低い。対策として、ロングホームルームでグランドデザインの理解を深める授業を実施した。次年度以降、さらに目指す生徒像を身につけさせたい。

(4) 質疑応答

質 問：委員

- ・グランドデザインについて、ロングホームルームでの生徒の反応に関する質問があった。

回 答：職員

- ・ロングホームルームでは、全ての生徒にグランドデザインを配布し、担任による説明や教室掲示のポスター等を通して、いつでも確認できる環境を整え、グランドデザインへの理解を深める取り組みを推進していく。

意 見：委員

グランドデザインの理解については、繰り返し伝えることで徐々に浸透していくものであり、理解が深まるまでには一定の時間を要するのではないかとの意見が示された。

意 見：委員

- ・グランドデザインについては、学校だよりやPTAだよりのタイトルの中に書いていても十分に理解していただけないことがあり、繰り返しお知らせし説明していくことが必要ではないかとの意見があった。子どもたちの活動や表彰、先生方の取組を通して、よく頑張っている様子が理解できる。さらに、日々教育活動は最終的にグランドデザインに結びつくものであり、活動の際に教員がこの活動がグランドデザインのどこに当たるのか」という視点でフィードバックを行うことで、生徒の納得や理解がより深まるのではないかとの意見が示された。

(5) 協議事項

①学校評価（校内担当者による評価）について説明

●全日制報告

- ・A評価6個、B評価4個。B評価項目：いじめ防止組織対応（94%達成・おおむね達成）、健康づくり（受診勧告件数が前年同数）、働き方改革（有給取得平均10.7日で目標14日未達）、唯一無二の学校づくり（第2回アンケートで目標値を若干下回る）
- ・インスタグラムフォロワー数：929名（4月比+392名）

●定時制報告

- ・全項目A評価
- ・出席率93.6%（過去4年間で最高）在校生37名中36名がほぼ全員登校
- ・出席率向上が成績アップや学習意欲の向上に連動

- ・課題：生徒の食生活（朝昼晩の食事摂取）

②学校関係者評価について協議

意見：委員

大変ご指導をいただいているのだなと感じるところであるが、少し気になったのは『熱があっても学校に来る』という話であった。健康も自己管理であると考えてるが、今は小学校・中学校では熱がある場合は登校を控えるよう指導しているようである。そのあたりの判断をどのようにされているのか、疑問に感じながら聞いていたところである。

回答：職員（定時制）

4年生では欠席ゼロを目標に取り組んでいるところであるが、熱がある場合は早退させている。病院でインフルエンザと診断されたケースもあるため、保健室で体温を測り他の生徒と接触させないよう対応しているところである。生徒自身が目標に向けて頑張っている面もあるが、安全面を考慮しながら対応していると考えてる。

意見：委員

「唯一無二の学校づくり」において、インスタグラムのフォロワー数が増えていることについて、フォロワーの層について質問があった。

回答：職員

フォロワーが増えるたびに確認しているところであるが、生徒や地域の社会人、佐世保の方、観光協会の方など様々であると考えてる。中学生よりも保護者の方のフォローが多いようである。

意見：委員

地域みらい留学で来る中学生は、どのように情報収集しているのか気になるところである。Instagramは高校生・中学生もよく見ているようであると認識しているが、実態はどうだろうか。

回答：職員

東京での進学説明会などでアンケートを取っているところであるが、プラットフォームのホームページ、Instagram、学校説明会など様々な媒体から情報を得ているようである。

回答：職員

プラットフォームのホームページでは、本校の特色が伝わるよう差別化した内容を掲載している。東京合同説明会では、学校の特色別に表示されるようになったことで、来訪者が増えた。中学3年生は有工の情報をTikTokやYouTubeで見たことがきっかけで受験を考えるなど、様々な経路があると考えてる。来てくれた生徒へのヒアリングをしなければ分からない部分も多いようであるが、いろいろな方向から興味を持ってもらっているところである。

意見：委員

生徒自身がイキイキと発信しているのがとても良いと考える。生徒の顔が見える動画は学校の魅力としてよく伝わるようである。ただし個人情報やトラブルのリスクもあるため、生徒を守りながら進めていただきたいと考える。

意見：委員

生徒さん自身がイキイキと情報発信していることはとても良い取り組みであるとの意見があり、YouTubeチャンネルの活用状況について質問があった。

回答：職員

本校には、YouTubeチャンネルがあり、地域みらい留学の情報発信を目的として開設した。コンテンツは、通学コースの紹介や卒業生で陶芸家として活躍している方のインタビュー動画を掲載している。今後は、卒業生のコメントをまとめたインタビュー動画も掲載も予定している

と報告があった。

意見：委員

最近はいじめの動画投稿なども問題になっているようである。動画投稿は良い面もあると考えるが、真剣な気持ちで発信するよう指導していただきたいところである。

意見：委員

インスタグラムやYouTubeでは、実際の生徒の顔が見え、自分の言葉で語る動画に魅力を感じるとの意見があった。個人情報や安全面への配慮を前提としつつ、生徒の姿が伝わるコンテンツの発信を検討してほしいとの提案があった。

意見：委員

数値目標だけにとらわれず、本質を見据えた取組を進めてほしいとの意見があった。また、生徒の実績や活動を発信することで『有田工業に来たい』と思わせられるかが大事であると考え。地域みらい留学だけでなく地元中学生への広報にもつなげていくことが学校の存続にも寄与するのではないかとの意見があった。

意見：委員

いじめの早期発見の評価がBとなっているが、重大な事案は発生していないのか、またどのような対応を行っているのかとの質問があった。

回答：職員

重大事案に至るケースはなく、担任がクラス内のトラブルに迅速に対応し、必要に応じてクラス全体で話し合いを行うなど、早い段階での指導を行っているとの説明があった。

意見：委員

スクールカウンセラーへの相談状況について質問があった。

意見：職員

相談枠はほぼ埋まることもあるが、生徒が安心して相談できる環境が整っており、同一のカウンセラーが年間を通して継続して対応しているとの説明があった。

意見：委員

SNSの活用について、表彰などの成果を紹介する投稿を増やしてはどうかとの意見があった。受賞結果だけでなく、目標や努力の過程を生徒の言葉で紹介することで、より多くの人に関心を持ってもらえるのではないかとの提案があった。

回答：職員

進学実績の紹介では合格者のコメントを掲載しており、電気科の資格取得の成果についても現在投稿を準備していること、生徒インスタチームが主体的に活動しており、今回の意見を踏まえて指導していきたいとの説明があった。

意見：委員

インスタグラムの取組については、以前の協議内容が反映されていることを評価する意見があり、生徒インスタチームのメンバー構成および代替わりの状況について質問があった。

回答：職員

現在は1年生3名、2年生1名で活動していること、初代メンバーの技術的スキルが高かった一方で引き継ぎに課題があること、今後は新生徒会役員の広報委員の協力も得ながら運営していく予定であるとの説明があった。

意見：委員

生徒会活動の一部として位置付けることで継承しやすくなるのではないかとの意見があった。また、フォロワー数や再生数などの実績は就職活動の際のアピール材料にもなり得るため、生徒の意欲向上につながる可能性があるとの助言があった。

意見：委員

成果を上げた生徒だけでなく、結果が出なかった生徒への支援にも関心があるとの意見があった。学校訪問の際、生徒の表情が穏やかで落ち着いており、教職員が一人一人に寄り添っている様子が感じられたとの評価があった。また、こうした安心・安全な学校環境についても発信することで、中学生や保護者への理解につながるのではないかと意見があった。「中学校に紹介できる生徒の割合」が、やや減少している点について質問があった。

意見：委員

生徒会役員などの意見を聞きながら、原因の把握に努めていきたいとの説明があった。

意見：委員

地域みらい留学の制度について、県外の同級生の中でも十分に認知されていないとの指摘があり、30代・40代の卒業生を含め同窓会等を通じて制度を広めていくことで、将来的に子どもの進学先として検討してもらえる可能性があるのではないかと提案があった。

意見：委員

定時制の食事に関して、食事を摂る生徒の状況や、箸の使い方などのマナーを含めた食育の取組について質問があった。

回答：職員（定時制）

食育の取組として、栄養士による食事マナーの指導や、大豆から味噌を作るワークショップなどを実施していること、入学時の歓迎会食や文化祭でのディナーバイキング、卒業前の会食など、生徒全員で食事をする機会を設けていること、また七夕やクリスマスなど季節行事に合わせた給食の提供も行っているとの説明があった。

回答：職員（定時制）

一方で、夕方から授業が始まる定時制の特性や、仕事をしている生徒の生活リズムにより、午後4時30分からの給食を摂らない生徒もおり、食育の取組が十分に浸透しにくい面があるとの説明があった。また、西九州大学の栄養学の教員による講演を実施するなど、年に1～2回は食育に関する取組を行っているとの説明があった。

意見：委員

開校記念行事で定時制の給食を試食した際、量が多く味も良かったとの感想が述べられ、行事食や季節に合わせた食事の取組について質問があった。

回答：職員（定時制）

有田地域の食材を活用した郷土料理なども実施しており、生徒が共に食事をする時間を大切にしているとの説明があった。

意見：委員

こうした取組を発信することで定時制の魅力としてPRできるのではないかと意見があった。

(6) 意見交換

テーマは「令和7年度の学校魅力化促進事業を振り返って」ということで、20分ほどを予定しているところである。まず事務局から今年度の取り組みについて、資料19・20ページを基に説明した。

●委員の皆様にご協力いただいた取り組みとして3点あると考える。

1. 年間計画の承認・教科書の承認
2. 就職試験前の面接週間における面接指導
3. 学校評価における学校関係者評価、以上のご協力をいただいたところである。

●学校運営協議会からご提案された内容で実施した取り組みとしては2点あると考える。

1. グランドデザインの理解を深める事業

2. 地域学習における訪問場所についてのご意見の導入（起業家の方への訪問を2年生の訪問地に取り入れ、メゾン・ド・アリタへの訪問を実施予定）であるところである。

●今年度新たに実施した取り組みは4点あるところである。

1. 委員の皆様を対象とした学校魅力評価システムアンケートの考察と意見交換に関する研修の実施

2. 職員向けの生徒募集に関する研修を学校魅力化委員の先生方を中心に実施

3. 県外募集に係る中学校訪問を昨年度より7校増やして実施

4. 窯元のある地域として薩摩焼の産地の中学校も2校加えて取り組んだところである。

委員の皆様からご意見やご提案などをいただきたいと考える。

意見：委員

面接指導の面接官として、いい経験をさせていただいたと考える。フィードバックの時間が十分に取れない点は残念であるところである。他校ではPTAによる面接指導の取り組みはあまりなく「いい取り組みだね」と評価されているようである。他校では複数ブースでランダムに練習できる柔軟い形式もあるようであり、参考になればと考える。

回答：職員

夏休み期間も含めて行事の中に組み込んでいるところである。25分で3人というところでフィードバックの時間が少ない点は課題であるとする。放課後にフリーな時間を設けてランダムに入れるやり方は参考にさせていただきたいと考える。

意見：委員

新しい取り組みを増やすとともに、スクラップ&ビルドの視点も必要であるとする。今年度の取り組みは全日制が中心であるが、定時制の食育関係の取り組みも魅力があると感じるところである。箸の使い方・食生活・皆で食べる楽しさなど、継続している取り組みも「見える化」して発信されるとよいと考える。

意見：委員

集団討議のスタイルの面接というのはあたりまえなのだろうか。

回答：職員

現状の就職面接のスタイルとしては個別面接がほとんどであるとする。指定校推薦などではそういったパターンもあるようであるが、個別面接の対策を中心に行っているところである。

電気科長：生徒数の減少が課題であるが、資格取得の面で成果が出ているところである。第二種電気工事士について、1年生から3年生まで全員が合格した。過去を振り返っても初めてのことであり、非常に喜ばしい成果であるとする。インスタグラムでの発信も含め、生徒数増加に向けて引き続き取り組んでいきたいところである。

セラミック科長：K君という素晴らしい生徒が、後輩たちに『セラミック科で作品を作れば評価される』というモデルを示してくれたところである。全国総文祭や日本和文文化グランプリなど多くの受賞があり、後輩たちにも大きな刺激になっているようである。ただ、受賞が直接生徒増加につながるわけではなく、普通科志向の強さもあると感じているところである。就職・進学ともにしっかり支援している学校であることを中学校へ伝えていく必要があるとする。

デザイン科長：入試志願者数についてはかなり危機感を持っているところである。特別選抜で30名の受験という状況であり、ここ数年で最も少なく危機感があるとする。セラミック科やデザイン科は本校の強みであるが、それだけでは十分ではないようである。中学生・保護者・中学校の先生方へどう伝えていくかを真剣に考え、やるべきことを継続しながらさらに広

報を強化していきたいと考える。

(6) 諸連絡

次年度については県教育委員会と確認の上、改めて連絡する旨の説明があった。

(7) 閉会

- ・校長より閉会の挨拶
- ・一年間を通した委員への感謝を述べるとともに、「地域を愛し 地域に愛される学校づくり」を念頭に今後も取り組んでいくことを述べ、閉会の挨拶とした